

人権意識に基づく公民館活動

～ハンゲル講座をきっかけにした草の根の日韓交流～

福津市 福津市中央公民館【公立公民館】 館長 黒田 俊彦

1. 福津市と公民館の概要

福津市は、福岡・北九州両指定都市のほぼ中間に位置している住宅都市です。市内を国道3号線とJR鹿児島本線が縦貫し、筑豊地方とは見坂トンネルで接続しています。東に犬鳴山山系、西に玄海国定公園の一角を成す玄界灘を擁しています。人口は近年、急増しており、11月末日現在で64,572人に達しました。市内には、光の道で有名な宮地嶽神社やユネスコ世界遺産の新原・奴山古墳群、津屋崎千軒などの古い町並み、マリンスポーツのメッカとして知られる福間海水浴場などがあり、年間を通じて多くの観光客が訪れています。

市内には現在、中央公民館1館と地区公民館3館があり、中央公民館は、キャンプ場を擁する野外活動広場を併設しています。また、市内には、自治会が管理運営している自治公民館（公民館類似施設）が60館あります。

2. 福津市中央公民館活動等の現状等

市内の公立公民館では、数多くのサークル活動が行われていますが、特に中央公民館には、地域づくり活動やボランティア活動などの社会貢献活動を行っている（行おうとしている）30余りの公民館公認のサークル（生涯学習サークル）があります。

主催事業のほとんどは、中央公民館などを会場として市役所内の市教育委員会郷育推進課で行っているため、中央公民館の主催事業はあまり多くありませんが、今回は、主催講座である「シアッ・ハンゲル・バン（ハンゲル初級講座）」と、この講座を母体とした草の根の国際交流団体「日韓慶福交流会（吉田晃会長、約60人）」の活動を紹介させていただきます。

3. 事業名（公民館主催講座）

シアッ・ハンゲル・バン（ハンゲル初級講座）

4. 事業の目的

公立公民館の全ての事業は、まち（地域）づくりや国際交流、各種ボランティアなどの社会貢献活動に結びつくこと、生涯学習によるまち（地域）づくりに資することを目的に実施しています。換言すれば、そのような活動を担う人材づくりが目的だと言うこともできます。なお、全ての事業の根底に人権尊重という目的があることは、今さら言うまでもありません。

5. 事業の実施主体

福津市教育委員会郷育推進課（福津市中央公民館）

6. 予算

約260,000円（中央公民館自体の管理運営費を除く）

7. 実施に至る経緯

福間町（現在の福津市）に当時お住まいだった故・金光烈（キム・クワンリョル）氏と当時の公民館職員が平成9年に出会い、二人で話し合った結果、平成10年度からシアッ・ハンゲル・バン（ハンゲル初級講座）を開講しました。この講座の目的は当初から、ハンゲルを習得することだけでなく、異文化理解や国際交流の振興に寄与することでした。換言すれば、言葉は国際交

流を容易にするための道具に過ぎず、歴史や文化の違いを超越して相互理解を深め、日韓の真の友情を確立したいということが目的でした。

そして、講座開講の翌年（平成11年）、講師の金光烈氏の仲介で、福間町（現在の福津市）と韓国の慶州（キョンジュ）市との国際交流団体である福間（現在の福津）・慶州文化親善交流会が発足しました。この交流会はその後、日韓慶福交流会と名前を変えましたが、福間町（現在の福津市）と慶州市の年1回ずつの相互訪問は、現在まで連綿と続いています。したがって、シアッ・ハングル・バン（ハングル初級講座）は、この交流会への人材育成・供給源という側面も持っていることとなります。

8. プログラム作成の視点と事業の内容

この講座は日韓の親善交流を目的にした講座であるため、次のような内容で構成しています。

(1) 語学の習得

基礎的な語学講座（初級）を行っています（写真右上）。



(2) 日韓交流の史跡巡り（フィールドワーク）

朝鮮式山城である大野城跡や名護屋城跡、朝鮮通信使ゆかりの相島（写真右中）などの史跡、資料館などの視察研修を行っています。



(3) 韓国の文化体験活動

韓国料理チジミの料理教室（写真右下）、韓国の正月遊びの体験、民族衣装であるチマチョゴリの試着、韓国料理の試食、民族楽器の演奏に合わせた舞踊の体験などを行っています。



9. 事業の成果

(1) 交流会の活動面

日韓慶福交流会はこれまで、毎年途切れることなく慶州との相互訪問を続けてきました。マスコミ報道によると、その時代の社会情勢や政治的背景などに左右され、国際交流事業が中止された例も散見されるようですが、このような影響を受けないのが自立した草の根の国際交流団体の強みだと言えます。これまで1回25人～30人ほどの訪問団が毎年1回、訪問し合っているため、双方500人ずつ計1,000人以上の人が行き来したことになります。初めの頃は、全く民間レベルの相互訪問でしたが、次第に双方の市長や市職員たちも訪問団に加わり始め、現在では、双方の市長がメッセージや記念品を交換するまでに発展しました。今後は、両市を挙げての交流に発展することが期待されています。

この他、各種お祭りでの民族楽器の演奏、日韓交流促進を目指した文化祭など、幅広い活動も行っています。

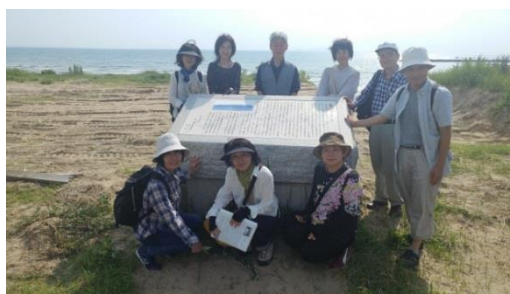
(2) 交流会の財政面

交流会の財政面を見てみると、福間町（現在の福津市）は相互訪問が始まった当初から、移動用のバスを提供して活動を側面から支援している程度ですが、その他のことは概ね、交流会独自の資金で実施しています。交流会の基本的なスタンスが「自分たちでできることは自分たちだけで行い、どうしてもできないときは行政にお願いしてみる」ということのため、ほぼ自立した草の根の国際交流団体だと言えます。

(3) 交流会の特徴的なエピソード

慶州市から第1回目の訪問団が訪れた平成11年、福間海水浴場で歓迎会（バーベキューパーティー）を行いました。訪問団に随行して来た京都出身の李京龍（イ・キョンヨン）氏の言葉がこの交流会の性格を端的に表しています。同氏は当時、隣国である日韓の真の友情確立を願って、慶州市の東国（トング）大学校で日本語を教えていましたが、パーティー会場で初対面の人たちが仲良く歓談している姿を見て、「私が長年夢見ていながら、実現できなかった光景がここにある。うれしくて、うれしくて…」と言った後は、涙で言葉になりませんでした。この光景こそが、この交流会が目指している姿です。このことは、自立した草の根の国際交流団体だからこそ実現できたことです。この交流会は、「相手の立場に立って、相手の痛みを知る」ということを発足当初から簡単に実現してみせたとすることもできます。

右の写真は、朝鮮通信使400年を記念して、交流会が平成19（2007）年に独自の資金で建てた案内板。黒田藩が朝鮮通信使を接待した相島が正面に見える、津屋崎海岸に設置されています。朝鮮通信使は、江戸幕府の招請により計12回、朝鮮国から日本国へ派遣された外交使節団です。両国は、欺かず、争わず、誠実と信頼が肝要であるという「誠信交隣」の精神を共通の交流理念として、お互い対等な立場で相手を尊重する交流を具現化しました。この案内板にも「徳川幕府約300年の日朝間は平和でありました」と書いてあり、平和交流の復活を願った案内板だと言えます。なお、朝鮮通信使に関する記録は平成29年10月、国連教育・科学・文化機関（ユネスコ）の世界の記憶（世界記憶遺産）に登録されました。



人権侵害が国際的に問題になっている昨今、このような事例があることを少しでも多くの人たちに知っていただければ、差別に苦しんだり、国際交流に取り組んだりしている人たちの励みになるのではないかと考え、今回皆様方にご紹介するものです。

(4) 交流会の評価

この交流会は、前述したような活動内容が評価され、西日本シティ銀行を母体とする西日本国際財団が実施している平成23年度アジア貢献賞を受賞しています。

10. 今後の課題

約20年前の講座発足当初は、金光烈氏と朴康秀（パク・カンス）氏という2講師体制でしたので、主催講座である初級講座と自主的なサークル活動である中級講座という2講座を実施していました。しかし、金氏が亡くなった現在、講師不足で初級講座のみの実施となっているのが現状です。これからも福津市と慶州市の相互交流を発展継続させていくためには、以前のような2講座体制に戻す必要があると考えています。

問合せ先

〒811-3224 福津市手光 2222 番地

福津市中央公民館 （担当）黒田俊彦、岩佐知実

Tel:0940-43-2100

Fax:0940-43-2868

E-mail kominkan@city.fukutsu.lg.jp